令和６年度
下山地区わくわく事業
実績報告集

豊田市　地域活躍部
下山支所

わくわく事業とは ～事業概要～

わくわく事業は、地域資源（人材・文化・自然など）を活用して、
「地域課題の解決」や「地域の活性化」に取り組んでいる団体の事業を支援する制度です。

■応募資格

①５人以上で組織された団体
②活動が地域の多数の住民に支持される団体
③政治活動、宗教活動又は営利活動を目的としない団体
④暴力団と密接な関係を有しない団体

■補助上限額

年１００万円／団体

令和６年度の下山地区わくわく事業団体一覧

		団　体　名	補助申請事業名	補助額(円)	新規	テーマ設定型※
1次	1	阿蔵組	須賀神社所蔵　農村舞台襖絵修理及び欠失面の復元画作成	339,000		
	2	大沼支障木整備部会	大沼町地内の支障木整備	123,000		
	3	大沼まちづくり部（塚本・鳥屋地区）	ロウバイ花木で大沼の四季を彩る景観づくり	104,000		
	4	想家PROJECT	地域活性のために空き家再生事業で関係人口を増やそう！	850,000		テーマ①
	5	下山スポーツフェスタ実行委員会	下山スポーツフェスタ	309,000		
	6	しもやまみんなの学び舎＊たんぽぽ	みんなでつくる地域と学校	684,000		
	7	NPO法人下山わくわくファーム	下山を好きになってもらう下山体験教室の開催	612,000		テーマ①
	8	花山自治区振興部健康促進隊	第２回花山「あせび」てくてくウォーキング	264,000	○	テーマ②
	9	羽布林道整備隊	林道障害木伐採、草刈り、路面、側溝管理	180,000		
	10	三河湖の自然と環境を考える会	三河湖の自然を理解して楽しむ事業	890,000		
	11	八沢の丘公園整備委員会	旧大沼小学校跡地の公園化整備	993,000		
2次	12	大沼雅楽会	雅楽deコミュニティ活性化事業	281,000	○	
	13	元気の郷づくりの会	地域住民で協力し、憩いの広場を守る整備事業	308,000		
				5,937,000		

テーマ設定型わくわく事業とは？

「テーマ設定型」わくわく事業は、下山地域会議が検討・提言した地域課題解決策の中から、「事業テーマ」を設定し、わくわく事業として事業実施するものです。

下山地区わくわく事業募集要項で示された事業テーマに共感した住民が、仲間を募って団体を結成して、交付決定後に事業に取り組みます。

～令和６年度募集の事業テーマは、以下の２件です～

事業テーマ	①下山と都市との交流
事業名	山村体験を通じた下山と都市との交流
事業目的	都市住民にとって魅力的で参加しやすく、かつ継続的に参加してもらえるような山村体験イベントを企画し、実施する。

事業テーマ	②下山の未来に向けて
事業名	下山地区住民の健康を保つための機会づくり
事業目的	「幸齢化」社会実現に向け、年齢に関係なく参加しやすく、かつ継続的に参加してもらえるような健康イベントの企画・運営や、市内で開催されている既存コンテンツとのマッチング等を実施する。

1 阿蔵組

代表者：小木曽　義一郎

活動場所：阿蔵自治区内

事業名：須賀神社所蔵　農村舞台襖絵修理及び欠失面の復元画作成及び設置

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

愛知県立芸術大学と共働し襖絵の修理を行うことにより、携わる大学生が阿蔵町の歴史を発掘するとともに、伝統に触れる事により交流を図り、地域の活性につなげることを目指しました。

具体的にどのような活動を行いましたか

愛知県立芸術大学と共働して襖絵の修理を行い、三番叟の衣装である袴を新しくし地域住民に継承の意識付けをしました。完成に伴い地区の大祭にお披露目を行うとともに、襖絵修理に関わっていただいた大学関係者も来ていただき参加していただきました。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

襖絵を修理することと、衣装を刷新することにより地域住民のやる気を起こしました。また、襖絵修理に関わった大学関係者も参加してもらうことにより、阿蔵地域を知ってもらうことや地域の人との交流もできました。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

地域から出た人にも地域の催行事に参加してもらい、より故郷を近く感じてもらえるよう努めていきます。そのことにより、Uターン移住者が増加することを期待します。自治区住民で協力し、交流人口やボランティアの方の手も借りながら、しっかり地域を守って伝統を継承していかなければと考えています。

２大沼支障木整備部会

代表者：川村　康二

活動場所：大沼自治区内

事業名：大沼町地内の支障木整備

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

地区内の生活道において、通行に支障をきたす多くの支障木が存在しますが、地元住民だけでは手を付けられず放置されています。地域役員が話を聞くとともに、伐採の提案することで環境改善や意思の疎通が図られ、地域の繋がりの維持を目指します。

具体的にどのような活動を行いましたか

関係する土地所有者の調査、特定をし、伐採の承認を得るとともに、作業への参加について、地域会合の場でお願いをしました。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

作業後は道路の見通しが格段に良くなり、安心して通行ができるようになりました。積極的にお声掛けすることで問題を共有でき、自分たちの地域を自分たちで良くしていこうという機運が高まりました。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

活動している姿を目にすることで、身の回りの不便を解消する手立てを考えたり、　地域における課題に対して、声を上げやすくなるのではと思います。

３大沼まちづくり部（塚本・鳥屋地区）

代表者：松井　和夫

活動場所：大沼自治区内

事業名：ロウバイ花木で大沼の四季を彩る環境づくり

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

ロウバイ、花桃はまだまだ小木ですが、５～１０年後には見ごたえのある風景を目指します。コスモス園については、ススキやセイタカアワダチソウ等が生い茂っており、荒れ地となってしまっていますが、今後しっかりと手を入れ維持をしていきたいと考えております。

具体的にどのような活動を行いましたか

自家栽培のロウバイの捕植（２０本）、花桃のシカによる食害防止柵・防鳥ネットを設置を実施しました。来年度には亀甲網の設置を予定しており、鹿による食害を徹底的に防止したいと考えております。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

２～３月頃にはロウバイの開花、４月には花桃が開花予定です。まだまだ木が小さいので、見ごろを迎えるのは何年か先にはなると思いますが、開花を楽しみにしていてください。また、コスモスに関しては、昨年の１１月に種まきをしたため、５月頃には開花の予定です。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

会員数も１名増加し、来年度は移住者と協同し鳥屋農園も整備する予定です。作物の栽培と景観保全の両面で、まちづくりに寄与していきたいです。

４想家（オモヤ）PROJECT

代表者：木下　貴晴

活動場所：羽布自治区内

事業名：地域活性のために空き家再生事業で関係人口を増やそう！

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

空き家の修繕を地域の人々と協力して行い、住民同士の交流の場として活用しました。この取り組みによって、山村での暮らしを具体的にイメージしやすくし、関係人口の増加や移住の促進を目指しました。今後も都市部の人々向けにイベントを企画し、地域とのつながりを深めることを目指し、活動を継続していきます。

具体的にどのような活動を行いましたか

4月にはしいたけの菌うち体験を行い、なめこで味噌汁作り体験を実施しました。5月には畑の防獣柵を竹で作るDIY体験、6月には田植え体験を行い、30名ほどの参加者が手植えを体験しました。また、レンタルスペースを試験的にオープンし、ヨガ教室も実施。さらに、山里ひとなる塾と連携し、交流会や今後の想家についての意見交換会も開催しました。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

試験的にレンタルスペースを活用したことで、普段想家に来ない人々に知ってもらうきっかけとなり、映画上映会などを開催しました。また、農山村体験を通じて、下山の魅力や人々を好きになってもらい、移住に繋がるケースもありました。地域住民の憩いの場として、祭り後の反省会などでPR活動を行い、想家の認知度を高めることができた年であったと思います。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

空き家の活用を通じて、地域内外の人々とつながる力が想像以上に大きいことを実感しました。単にイベントを開催するだけでなく、空き家という共通の課題を活かし、地域住民や関わる人々と共に試行錯誤しながら面白いものを創造することに、大きなやりがいを感じています。この活動に興味がある方、一緒に挑戦しませんか？プロジェクトメンバー一同お待ちしています！

５下山スポーツフェスタ実行委員会

代表者：川合　晃司

活動場所：下山地区全域

事業名：下山スポーツフェスタ

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

　下山地区が持続可能な地域であるためには、住民同士の楽しい交流と健康的な生活が不可欠であり、次世代の子どもたちに地域への愛着を育むことが重要です。そのため、年齢に関係なく誰でも参加できるスポーツイベントを開催し、地域のつながりを広げ、下山に愛着を持つ人々の輪を広げることを目指してます。

具体的にどのような活動を行いましたか

　第７５回下山地区体育大会とあわせ、地域の関心の高いラリーカーのデモ走行や謎解きゲームなどを行い、多くの住民の参加を得るとともに、ダイジェスト動画を公開し、地区外にも広く下山をＰＲしました。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

　イベントでは、ラリーカーのデモ走行への同乗や、WRCドライバーへの応援寄せ書きフラッグを作成するなど、住民の関わりを重視しました。完成した寄せ書きはドライバーに手渡し、SNSで発信して下山のPRに繋げました。また、「京都の女の子」の盆踊りでは中学生が積極的に参加し、ダイジェスト動画で元気な下山を広くPRしました。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

　下山地区体育大会への参加者が減少しているため、同時開催することで参加者を増やし、「元気な下山」を合言葉に地域を盛り上げる機会にしたいと考えています。また、子どもたちが大人と一緒に楽しい1日を過ごし、同じ時間を共有することで、下山への愛着を育むことを目指しています。

６ しもやまみんなの学び舎＊たんぽぽ

代表者：志賀　祐子

活動場所：下山地区全域

事業名：みんなで作る地域と学校

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

下山地区では３校の小学生同士による交流の場が減っているという課題があります。そのため私たちたんぽぽは、以下のことを目標に活動を実施しました。

目標１　中学生以下の子どもたちと保護者の交流の場を作る。
目標２　子育て世代に限らず地域の人たちとの交流の場を作る。
目標３　「地域で子育て」の共通イメージを地域全体で持つ。

具体的にどのような活動を行いましたか

12月にはピザ交流会、2月には映画「みんなの学校」上映会＆お話し会、3月には「六所で遊ぼう！」を開催しました。ピザ交流会では計66名、映画「みんなの学校」上映会＆お話し会では計147名（ボランティア含む）、「六所で遊ぼう！」では、計69名の方が参加してくださいました。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

ピザ交流会では移住者も参加し、有意義な時間となりました。上映会では地域で子育てしている姿を共通のイメージとして共有し、お話会では「子どもがありのままでいられる下山へ」をテーマに参加者間の交流を深めました。「六所山で遊ぼう！」では、3校の子どもたちと保護者が交流する場を提供し、交流ゲームで知らない人同士が知り合う機会を作りました。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

活動を通し、地域の交流の場の重要性を実感しました。今年度は子ども向け人権講座を開催し、「自分もお友達もありのままの気持ちを大切にしよう」というメッセージを伝えたいと考えています。また、たんぽぽでは一緒に活動する方を募集中です。興味のある方はお気軽にご連絡ください！

7 NPO法人下山わくわくファーム

代表者：祖父江　奈々子

活動場所：下山地区全域

事業名：下山を好きになってもらう下山体験教室の開催

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

地区外の人に下山ならではの体験を提供し、地域を知ってもらうことを目的としています。これにより交流人口や関係人口を増やし、最終的には定住人口の増加を目指します。地域の魅力を伝え、生活を考えるきっかけを提供することで、下山の活性化と地域全体の活力向上を図ります。

具体的にどのような活動を行いましたか

防災キャンプでは、火おこしや山水の濾過などの技術を学び、キャンプ道具が災害時に役立つことを体験しました。また、自然の中でマスのつかみ取りや調理、流しそうめん、鹿の解体、五平餅作りや餅つきなど、下山ならではの多彩な体験を通じて学びと楽しみを得ました。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

防災キャンプでは火の起こし方や水の濾過など、災害時に役立つスキルを学びました。マスのつかみ取りや調理を通じて自然の恵みを実感し、鹿の解体では獣害問題について学ぶ機会にもなりました。流しそうめんや五平餅作り、餅つきなどの体験を通じて地域の食文化にも触れ、下山の自然や暮らしの魅力、地域とのつながりを深く感じる貴重な機会となりました。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

下山は自然を活かして暮らせる魅力的な地域であり、その魅力を地域外にも伝えたいと考えています。子どもから大人までが楽しく過ごせる、自然と共に生きる地域を目指しています。ボランティアも募集中です！

８花山自治区振興部健康促進隊

代表者：恩田　友明

活動場所：花山小学校周辺

事業名：第２回花山「あせび」てくてくウォーキング

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

人口流出が進む中、下山地区、TTＣ-S、花山自治区民が、ウォーキングを通しコミュニケーションを重ねることで、人口流出を食い止めたいと考えています。また、皆さんが健康意識を高めて、楽しく、力強く、暮らせる場の手助けになる事を目指し、活動をしております。

具体的にどのような活動を行いましたか

第２回花山「あせび」てくてくウォーキングでは、対象を下山全地域に拡大し、新たに「蛇ねぶり岩コース」を含む3つのコースを設定しました。また、健康講座やベジチェックで健康意識を高め、竹ストック作りで全身運動を促進しました。さらに、通年で「あせび」ロードの整備と保全活動も実施しました。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

目標130名に対し87名がエントリーし、最終的には67名が参加。天候の影響でキャンセルが相次ぎましたが、下山地域やTTS-Cの交流促進、健康意識向上を図り、事故や怪我もなく無事に終了しました。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

親子連れの参加が少なかったのは他イベントとの重複が原因と考えられるため、今後は地域行事を事前に把握して参加を促進したいと考えています。雨天でも約78%の参加があり、健康意識の高さがうかがえました。アンケート結果を今後の参考にし、誰もが気軽に参加できる健康づくりの場として継続していきたいです。

９羽布林道整備隊

代表者：安藤　実

活動場所：羽布自治区内の林道　２路線

事業名：林道障害木伐採、路面・側溝管理

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

林道は管理が他人任せになりがちで、実質的に放置されていることが多いものの、通行者が倒木や枝をその場で片付けて対応してきました。ラリーをきっかけに有志を募ったところ、十分な人数が集まり、路面や側溝の掃除を行うことができ、地域の活性化にもつながっています。

具体的にどのような活動を行いましたか

今年も5月に豊田しもやまラリー、11月にWRCが予定されており、準備として路面の清掃や落ち葉・土砂の除去、倒木の伐採を実施。側溝の詰まりも多く、重機を使って排水対策の作業も行われました。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

側溝や路面の清掃後は見違えるほどきれいになり、作業の効果を実感できました。ただし、風が吹くと再び落葉が路面を覆ってしまうことが課題として残っています。前回清掃した側溝は堆積物が少なく、継続的な整備の重要性も感じられました。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

多くの住民が「自分たちの地域は自分たちできれいにする」という意識を持っていることが分かりました。こうした清掃作業も地域活動の一環として、今後も皆で協力して取り組んでいきたいと考えています。

１０三河湖の自然と環境を考える会

代表者：川合　弘太

活動場所：三河湖周辺

事業名：三河湖の自然を理解して楽しむ事業

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

三河湖では冬から早春の閑散期に、手軽に楽しめるワカサギ釣りの魅力を発信し、観光客の増加を目指しています。特に大きなワカサギである「デカサギ」が釣れる話題性により注目が高まり、関係人口の増加と観光活性化が期待されています。

具体的にどのような活動を行いましたか

春に三河湖でワカサギのふ化放流を行い、卵の管理を徹底することでふ化率を向上させました。秋にはアマゴの放流で湖の生態系を育成。また、釣り人からの釣果情報を収集し、データを蓄積して来期に活かす基盤を築きました。11月から3月にはワカサギダービーを開催し、多くの人々に三河湖の魅力を楽しんでもらいました。さらに、三河湖テラスこりん完成後は定期的に清掃活動を行い、湖の美しい環境を守り続けています。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

三河湖のワカサギのふ化率は約20%に低下しましたが、三河湖漁業組合と協力し、市販ふ化装置補助を得て、次年度のふ化率向上に向けた対策を進めています。2024年度のワカサギ釣果は増加し、認知度も高まっています。三河湖ワカサギダービーには60名が参加し、多くの人々が繰り返し三河湖を訪れる結果となりました。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

今後とも三河湖ワカサギが閑散期の三河湖観光の柱となるように善処してまいります。ご協力よろしくお願いいたします。

１１八沢の丘公園整備委員会

代表者：鈴木　悟

活動場所：大沼地区

事業名：旧大沼小学校跡地の公園化整備

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

子どもから高齢者まで集える公園広場を整備し、小学校跡地で世代を問わない交流の場を作ることを目指しています。地域内外の参画を促進し、下山ファンを増やして地域の活性化に貢献します。

具体的にどのような活動を行いましたか

公園整備では、手作り遊具や天然木を利用したぶらんこ、ウッドデッキ、ドッグランを設置し、気軽に集える場づくりとしては、グラウンドから山側斜面周辺を整備し、藤棚の手入れを行い、のどかな「憩いの場」を整備しました。また、空き地の草刈りやグランド整備、仮設トイレの設置も行いました。さらに、下山ファンづくりのため、ウッドデッキ制作公園整備に地域内外問わず参加者を募集し、学校やPTAを通じて紹介を行い、支所だよりやブログで活動を紹介しました。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

ピザ作り体験や星座教室などのオープンイベントには130名、小学校の保護者会による送別イベントには50名が参加しました。また、住民によるドッグランの利用が10月から始まり、散歩コースの利用者も増加しています。さらに下山ファンづくりの一環として、ウッドデッキやドッグランなどの事業に他団体を受け入れ、地域内外で延べ100名のファンづくりを進めました。また、R7年度にはギター教室でウッドデッキ利用の予約もありました。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

八沢の丘公園整備委員会では「公園整備に終わりなし！自分たちも楽しみながら！」を合言葉に活動しています。地域内外を問わずどなたでも大歓迎です。一緒に下山を楽しみませんか？

１２大沼雅楽会

代表者：岩月　錦也

活動場所：大沼自治区集会所

事業名：雅楽deコミュニティ活性化事業

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

大沼雅楽は131年続く下山地区の無形民俗文化財ですが、コロナ禍で会員が減少し存続の危機にあります。これを守るために、小学生に伝承し、学校行事や地域の発表会で披露することで、地域住民に雅楽の魅力を再認識してもらい、地域の活性化を目指しました。

具体的にどのような活動を行いましたか

小学校の雅楽クラブでは、生徒への指導や教員との勉強会をあわせて計30回実施しました。さらに、自治区集会所では小中学生向けに巫女舞の練習会や発表会を計5回、地域住民向けの雅楽衣装体験会を1回、住民が雅楽に触れる体験・練習会を計5回行い、子どもから大人まで幅広い世代に雅楽の魅力を伝える取り組みを行いました。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

発表会や体験会を通じて、地域住民が大沼雅楽の伝統の大切さを再認識し、小学生との交流を通じて、地域コミュニティの活性化にもつながりました。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

大沼雅楽会は会員の多くが地区外や多忙な世代のため、全員での練習が難しい状況にあります。今後は下山地区のイベントで小学生との共演を目指しており、雅楽に興味のある地域住民や、イベント主催者に協力を呼びかけています。

１３ 元気の郷づくりの会

代表者：武藤　富保

活動場所：阿蔵自治区内 わくわく広場

事業名：地域住民で協力し、憩いの広場を守る整備事業

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

今年度は、残念ながら地域住民の高齢者が数名逝去され、高齢化率はやや下がったものの、事業に担う住民の高齢化は進行中です。地域課題である高齢化・少子化の直接的な解決はできなくとも、地域活性化のために、できるだけ多くの住民の参加を促すことを重視しています。

具体的にどのような活動を行いましたか

多くの人に参加してもらうためには参加しやすさが大切と考え、整備作業は地域行事に合わせて実施し、区長や組長の協力も得ながら進めています。これにより、普段参加の少ない住民にも関心を持ってもらうことを期待しています。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

「わくわく広場」は順調に整備を進めており、獣害の心配もなくなり、自然との共生を意識した形で徐々に変化しています。人工物ではなく、維持しやすい方法として植樹や昆虫の生息環境づくりに取り組んだ結果、現在はカブトムシの幼虫が定着しております。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

地域住民の憩いの場となるよう活動していますが、地理的条件や関心の差により参加者の地区に偏りがあります。特に阿蔵組が中心となっており、他の組や移住者の方との交流が少ないため、課題となっています。

WE LOVE しもやま

WELOVEしもやま